

## 特集1

## 2024 年度 日本天文教育普及研究会

## 東北支部研究会報告

みんなと共有する天文学・みんなに支えられる天文学  
～ 天文学の最先端を知る ～

田崎文得、佐久間理江（東北支部代議員）

## 1. はじめに

2024 年度東北支部研究会を開催しましたので、ご報告いたします。2025 年 3 月 2 日（日）にオンラインで開催した研究会には、総勢 21 名（東北支部代議員含む）の参加がありました（図 1）。今回の研究会は「みんなと共有する天文学・みんなに支えられる天文学～天文学の最先端を知る～」というテーマを設定しました。東北 6 県は日本の総人口に対して 7%程度の人口であるにもかかわらず、面積は日本の総面積に対して 18%と開放的な地域性を持っています。その中で、国立天文台水沢 VLBI 観測所や JAXA 角田宇宙センターなどの研究機関や多くの大学では最先端の天文学・宇宙物理学・惑星科学などの研究が実施されています。また日本天文遺産に認定された会津日新館天文台跡（福島県）や臨時緯度観測所眼視天頂儀及び関連建築物（岩手県）を有し、古くから天文観測や国際的な科学推進に貢献してきた場所でもあります。このような地域の財産をかけがえのないものとし次世代に引き継ぐためには、それぞれ離れた土地で活躍する天文教育・普及に励む人々がお互いの取り組みを共有し支え合うことが必要不可欠です。そこで今回の東北支部研究会では「天文学の最先端を知る」と題して、国立天文台の伊藤哲也氏を招いてアルマ望遠鏡や関連する最先端の宇宙科学、天文教育、天文普及についてご講演をいただくことで、最先端の天文学の現場でどのようなことが実践されているのかを知り、地域での活動に役

立てることを目指しました。また、一般会員による活動報告などをベースに会員間の相互コミュニケーションを図ることができるようにしました。今回も障害のある方に対する合理的配慮として、講演者のみなさまに講演資料・発表資料の事前提出をご協力いただきました。また前日 3 月 1 日 18 時半からは情報交換会も実施し、参加者間の交流を深めました。

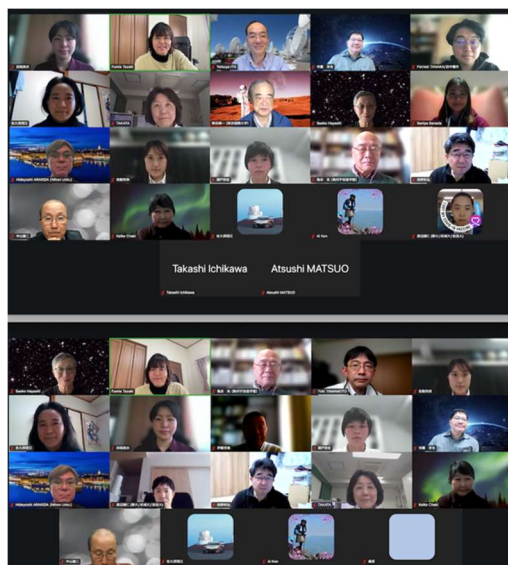


図 1 午前(上)と午後(下)の集合写真

## 2. 研究会の内容

研究会当日は以下のスケジュールに沿って進行了ました。

- ・ 09:40 日程確認・諸連絡
- ・ 10:00 伊藤哲也氏『電波天文学の世界 アルマ望遠鏡とその成果』（招待講演）
- ・ 11:15 田中優作氏・眞田聖光氏『視覚障害

者と晴眼者が共に感動できる次世代型プラネタリウム：宇宙のサウンドスケープ』

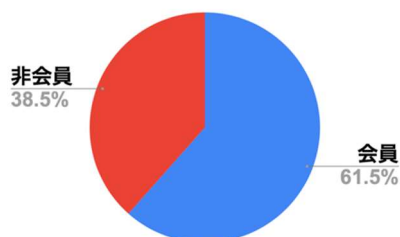
- ・11:35 情報共有・記念撮影・昼休み
- ・13:00 亀谷収氏『岩手県、特に奥州市における星空の暗さ調査』
- ・13:20 荒木田英禎氏『田山暦・南部絵暦：天文学と生活とをつなぐ架け橋』
- ・13:40 伊藤芳春氏『「会合周期の問題」の問題』
- ・14:00 山本裕樹氏『インターネット望遠鏡プロジェクトの活動について』
- ・14:40 岩動怜奈氏『月の見え方を生活圏内で学ぶ動画教材の開発と実践』
- ・15:00 瀬戸彩虹氏『天体の動きにおける全天球映像の理科教材としての活用』
- ・15:20 田端真衣氏『視覚障害児を対象とした天文に関する授業実践～流星群を題材とした教材を用いて～』
- ・15:40 佐久間理江氏『病弱支援学校におけるVR学習の可能性』

各講演の詳しい内容はそれぞれの記事に譲りますが、どの講演も多数の質疑応答、活発な議論が交わされたことが印象的でした。たくさんの学生が研究内容を発表してくださったことも含め、とても活気のある研究会を実施することができました。

### 3. アンケート結果

研究会後に参加者・申込者にアンケートへの回答をご協力いただきました。以下に結果をまとめます。有効回答数は13です。

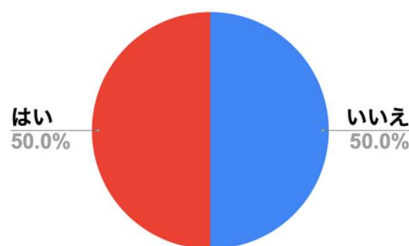
#### (1) 天文教育普及研究会の会員ですか？



過半数が天教会員ですが、4割近くは非会

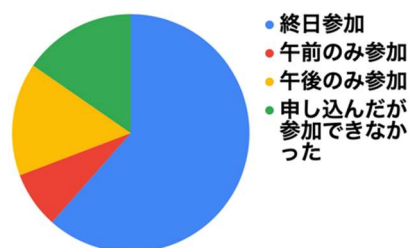
員の方が参加してくださいました。

#### (2) 東北支部会員ですか？



天教会員8名のうち、ちょうど半数が東北支部の会員でした。東北以外の会員にも興味を持っていただいたことがわかります。

#### (3) 当日の参加の仕方について

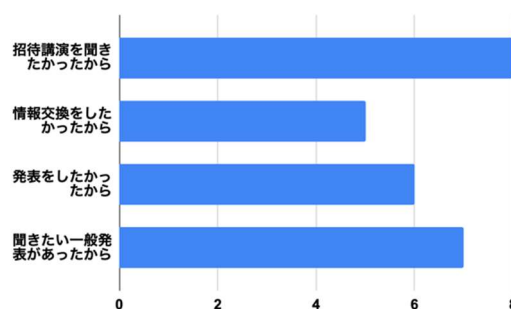


過半数の方が終日参加されました。

#### (4) 参加した場所

アンケート回答者が参加した場所は、宮城県が一番多く4名、他は岩手県・福島県・山形県の東北地方に加え、千葉県・石川県・山口県からの参加もありました。

#### (5) 参加を申し込んだ理由



招待講演や一般発表を聞いたかったという回答が特に多く、情報収集の場として捉えられていることが考えられます。参加を申し込んだ理由の詳細には、「特定の発表を聴講したかった」という意見のほかに、「自分の活動を紹介してほかの人の意見を聞いたかった」などが挙げられました。

**(6) テーマや日程・プログラムについて**

回答者全員が「良い」と答えました。

**(7) 招待講演について**

参加した回答者全員が「良い」と答えました。具体的には「わかりやすく ALMA の概要が知れてよかった」「現場の方ならではの話を聞くことができる貴重な機会でした」「聴講できなかったのが残念。アーカイブなどで閲覧したい」「オンラインだからこそリアルタイムで情報を共有することができたと感じた。普段、電波望遠鏡や国外の天文台について知る機会がなかったので、大変興味深い内容で、天文についての知識の幅が大きく広がった」という意見がありました。

**(8) 一般発表について**

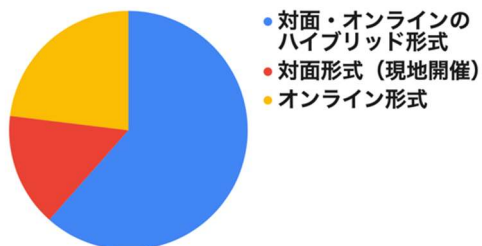
参加した回答者はほぼ「良い」と答えました。「一人 20 分の持ち時間はちょうどよかった」「それぞれの現場での工夫が紹介され、講演者の努力に感銘を受けた」などの声がありました。

**(9) Zoom によるオンラインの開催形式について**

1 名が「どちらとも言えない」を選択し、ほかは全て「良い」という回答でした。具体的には「広い東北なので、Zoom は参加しやすい」という意見がありました。

**(9) 次回以降の招待講演の希望**

アンケートでは特に意見は挙がりませんでした。引き続き茶話会などで議論していきたいと思います。

**(10) 次回以降の開催形式について**

ハイブリッド形式を希望する回答が過半数でした。一方、対面のみ・オンラインのみを

希望する回答もありました。

このほかにもアンケート全体を通して、研究会運営側への励ましなど温かいお言葉もいただきました。いただいた全てのご意見は、今後の支部会活動の参考とさせていただきます。

**4. おわりに**

2024 年度日本天文教育普及研究会東北支部研究会を無事に開催することができたのは、東北支部のみなさま、他支部から支えてくださるみなさま、天教事務局のみなさま、東北でともに活動を盛り上げてくださる天教外のみなさまのおかげです。この場を借りて感謝申し上げます。今後も、東北地方という広い地域で活動する会員がお互いの取り組みを共有し支え合うことができるよう、東北支部の運営にご協力いただければ幸いです。



田崎 文得



佐久間 理江